



パルシステム 放射能レポート

Radioactivity report

ご希望の方は毎月1回
「パルシステム放射能レポート」を配付いたします
190888 ◀ 左記の6ヶ注文番号で
お申し込みください。

食と農を 未来につなぐために

原発事故から5年半が経ちました。

ニュースや市場などで放射能について耳にする機会は少なくなりましたが、行政が行う多くの放射能検査では、いまだに放射能の検出があります。

パルシステムでは現在でも、

自主的な放射能検査をはじめ、さまざまな対策を行っています。

また、放射能をより低減するための話し合いも継続しています。

放射能対策について、よりわかりやすくお伝えするために、

この「パルシステム放射能レポート」を登録された方に毎月1回お届けいたします。



JAつくば市谷田部産直部会
生しいたけ生産者のみなさん

● 谷田部の生しいたけ(原木栽培)の検出状況

2016年4月から8月で各自治体が検査を行い発表している原木しいたけの放射能検出数値の平均値は、20.8Bq/kg、同様に菌床しいたけの平均値は7.3Bq/kgでした。それに対して、谷田部の生しいたけ(原木栽培)は、今年度の検出平均値は7.0Bq/kgでした。

しいたけの放射能検出数値 (2016年4~8月/単位:Bq/kg)	
各自治体の 原木しいたけ(平均)	20.8
各自治体の 菌床しいたけ(平均)	7.3
谷田部の生しいたけ (原木栽培)	7.0

● 原木のひっ迫と産地の対応

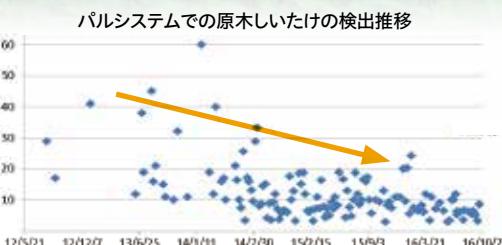
茨城県の産直産地・JAつくば市谷田部産直部会では、西日本の原木を除き、原木の段階で放射能の数値を確認してから受け入れをしています。現在、原木は、北は岩手県から南は大分県まで、さまざまなところから手配しています。

もともと福島県が大きな原木の供給産地であったため、原木市場は全体的にひっ迫しています。旧来からの福島県阿武隈山地の原木は国が定めた原木基準を超過してい

るため、原木の供給を見合わせてもらうという苦渋の決断を行ってきました。原木価格が高騰するなか、国の原木基準を下回ったものだけを仕入れていますが、さらに極力値の低い原木を使うよう努力しています。震災当時は、樹皮表面についていた放射能も洗浄すれば大きく減らすことができましたが、現在は原木内部に入っているため、外側洗浄は効果がなくなってきた。原木供給がひっ迫した実情のなか、産地では、原木産地を選定して、さらに原木の産地ごとに原木を検査し、出てきたしいたけの検査を行うというように、二重三重に検査を実施。この対応が放射能検出数値の大きな差となってあらわれています。

● 放射能低減の取り組み

しいたけの栽培管理を徹底する一方で、さまざまな放射能低減の取り組みを行ってきました。放射能を吸着するというブルシアンブルーという色素に原木をひたし、実験的に使用したことがあります。しかし、石づきの部分が青くなってしまい商品価値が下がることなどから、使用を断念しました。現在は、別の吸着資材をしいたけの植菌の際に使用できないか、植菌メーカーと研究しています。



● 原木しいたけと里山保全

日本では、古くから薪炭林として林と人のくらしが密接につながっていました。ある一定の周期で手を入れなければ、林は荒廃してしまいます。

原木しいたけ生産者、生協、農協ほか43団体は、2013年9月に「NPO法人里山再生と食の安全を考える会」を結成。原木を育む里山づくりや、森林・地域の環境を守ることを目的に、子どもたちの森林体験や、発酵堆肥の開発などに取り組んでいます。今年は、きのこの学校を開催。原木しいたけの植菌を子どもたちが体験しました。



● 公開確認会も開催

2016年9月には公開確認会も開催。100名を超える参加者が見守るなか、原木しいたけの5年半の取り組みを振り返りました。

食感や香りのよさで好評。昔ながらの原木栽培です。

パルシステムの生しいたけは、今では希少となった昔ながらの原木栽培で育てられています。

手間も時間もかかりますが、食感や香りのよさは格別。うまみも濃厚で、さまざまな料理にコク深さを加えます。



コトコト きなり きなりセレクト (14ページ)
247 288 342335
生しいたけ(原木栽培)



コトコト きなり きなりセレクト
111201 289 136191
徳用生しいたけ(原木栽培)

190g 348円(税込376円)
国産原木栽培の風味を楽しんでください。
大きいカサが入る場合があります。



東日本の産地の原木は、すべて伐採時に仕入元が放射能検査を行い、国の定めた基準をクリアしたものだけを使用します。



雨や空気中からの降下による汚染を防ぐため、原木は保管から栽培まで覆いのある「ほだ場ハウス」でできるだけ行います。



原木は、産地ごとにラベルを付けて管理。しいたけから独自基準値以上の放射能が検出された場合、ロット単位で処分。最後に産地の自主検査とパルシステムの独自検査を経て、基準をクリアしたものだけをお届けします。

放射能は、調理方法で減らすことが可能です

カリウムが豊富なしいたけには、カリウムと間違えてセシウムを吸収しやすい性質があります。セシウムは水に溶けやすいため、水から煮出すことでセシウムの約8割を減らすことができます(食品の調理加工による放射性核種の除去率より)。

Q 放射能検査状況について

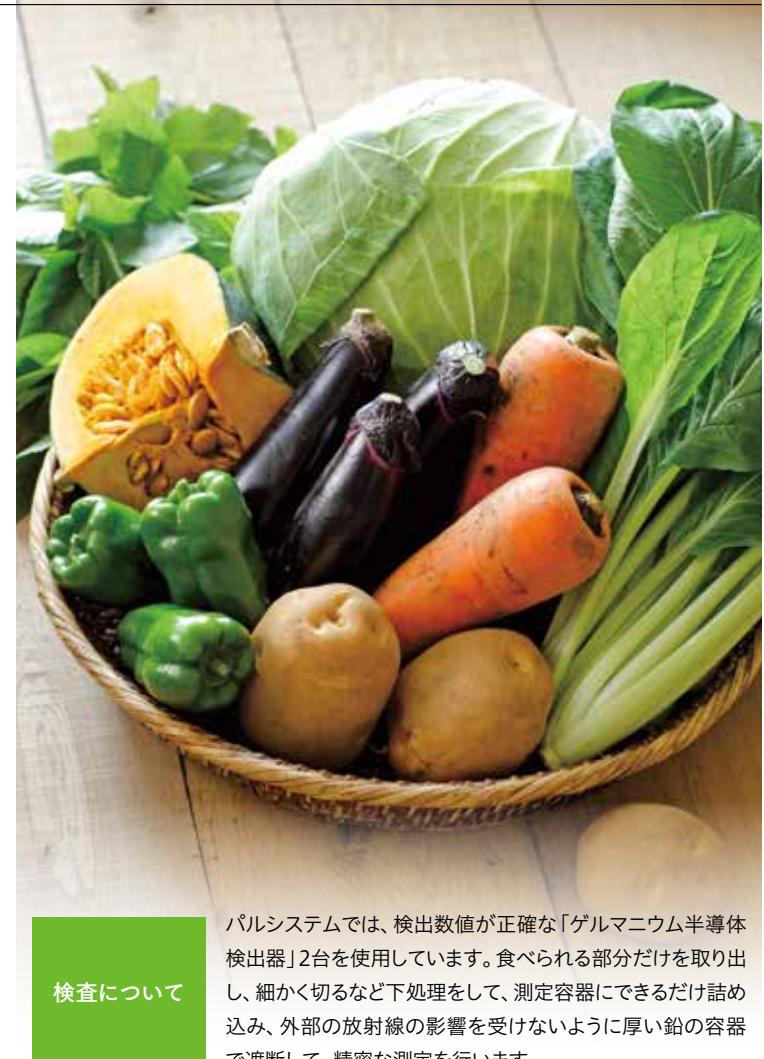
パルシステム自主検査の報告(2016年9月30日までの検査結果・米のみ10月26日現在の情報を反映)

〈2016年度上半期の検査数(カッコ内は検出件数)〉 不検出率:98.3%

青果	330 (1)	牛乳・乳製品	41	飲料水・飲料	31
しいたけ	38 (26)	肉類	13	その他(加工)食品	749
きのこ類 (しいたけ除く)	77 (2)	魚介類	159		
米	61 (2)	乳幼児用食品	201	総計	1700 (31)

〈検査結果:2016年10月26日現在〉 ※乳幼児用食品は2016年より1Bq/kgに検出下限値を下げました。 ※鶏卵は下期に計測予定です。

青果	2016年5月に小田原のバレンシアオレンジの3件中1件から3.2Bq/kgが自主基準内で検出されました。	牛乳・肉	産地ごとに定期的に検査しており、今年度放射能は検出されていません。
しいたけ	生しいたけ(3.1~12Bq/kg)で放射能が自主基準内で検出されました。	魚介類	魚介類で放射能は検出されていません。
他のきのこ	しめじ(ひらたけ)(3.3~3.5Bq/kg)で放射能が自主基準内で検出されました。他のきのこ類は放射能不検出です。	乳幼児用食品	検出下限値1Bq/kgで検査を行っており、すべて不検出です。
米	2016年産米の検査は26産地61検体の検査を行いました。日本の稻作を守る会の栃木こしひかり(玄米)を検査したところ、2件(3.9、4.1Bq/kg)の検出がありました。検出された玄米を白米で再度検査した結果、検出はありませんでした。 ※放射能はぬか部分に多く蓄積します。検出されました栃木こしひかりは、白米でのお届けとなります。	その他食品 <お料理セット>	肉・豆腐などは定期的に検査を行っています。野菜のみを毎月検査を別途行っています。菌草類については毎週検査を行っており、しいたけおよびしいたけ水煮(3.4~11Bq/kg)から自主基準内ですが検出されています。その他のお料理セットで使用されています。菌草類(えのき茸、マッシュルーム、ぶなしめじ、まいたけ)からの検出はありません。
		その他食品 <大豆加工品>	豆腐、納豆、味噌、醤油など大豆加工品は、2014年産および2015年産原料で検査を行っているものと、製品で検査を行っているものとがありますが、放射能は検出されていません。



パルシステムでは、検出数値が正確な「ゲルマニウム半導体検出器」2台を使用しています。食べられる部分だけを取り出し、細かく切るなど下処理をして、測定容器にできるだけ詰め込み、外部の放射線の影響を受けないように厚い鉛の容器で遮断して、精密な測定を行います。

Q 過去の検査状況と検査した商品についてはホームページですべて公開しています。

① トップページ右の「放射能自主検査結果」をクリックし、

② 出たページの「最新自主検査結果はこちら」をクリックすると、

③ 放射能自主検査の結果が最新のものからリストに並び、確認できます。検査は、ご注文にあわせて実施していますが、冷蔵・冷凍・常温の各加工品は年1回計測しています。

pal-system

10月2日(火)10月2日(水) 検索

今週のお買い得商品

アレルゲン 小麦・大豆・米 放射能検査 不検出 寿命 180日

商品注文の際に、各商品ごとに検査を行ったか、検査対象外の商品が確認できます。

パルシステムの独自ガイドライン(自主基準)と検出限界について

パルシステムでは食品の残留放射能について**独自ガイドライン(自主基準)**を設定しています。放射線にはこれ以下なら安全という「しきい値」がないので、**基準以下であっても、放射能低減を追求します。**検査の結果、**自主基準を超えるものについては供給いたしません。**また、独自ガイドラインは継続的に見直しを行います。

自主基準(独自ガイドライン) (セシウム134,137の合計) 2014年10月より現行基準	国規格基準
水、飲料、牛乳、乳製品、米、乳幼児用食品	10
青果類(きのこ類除く)、肉類、卵、魚介類、海藻類、その他食品、きのこ類(しいたけ除く)	25
しいたけ	100

※乾燥食品は生原料や摂食状態で検査します。(単位Bq/kg)

※乳幼児用食品は「yumyum」掲載商品とインターネットの「赤ちゃん&キッズ食材」掲載商品。

- 週次の「放射能関連のお知らせ」はホームページで掲載しています。
- インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川ゆめコープ・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・

パルシステム茨城・パルシステム福島・パルシステム静岡

パルシステム問合せセンター

0120-868-014

※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

検出限界値

検出限界(セシウム134、137それぞれ) 2016年4月1日から新基準に変更	
乳幼児用食品	1
水、飲料、牛乳、乳製品、米、青果類、肉類、卵、魚介類、その他食品	3

● フルーツyumyumセットにセットされている果物は、検出下限値1Bq/kgで検査を行っています。

放射能検査の対象範囲について

農畜産物とその加工品	北海道を除く東日本産(新潟・長野・静岡以東の本州産)
水産物とその加工品	日本沿岸・近海・一部の北太平洋・淡水産水産物

検査について

● 青果は、北海道を除く東日本(新潟県・長野県・静岡県以東の本州17都県)のカタログ掲載産地において、分類ごとに一品目以上検査をしています。報告の時点で検査が間に合わない品目については、供給前までには放射能検査を実施します。

● 水産は、北海道から関東の沿岸近海のエリアを重点地域として、原料切り替わりをした月に検査を行っています。

パルシステム山梨

甲府センター 0120-28-5891

西桂センター 0120-32-1061

一宮センター 0120-21-9898

※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。

パルシステム群馬

高崎センター 0120-60-5115

渋川センター 0120-36-3315

東毛センター 0120-63-3735